

令和元年9月7日

軽井沢町議会
議長 佐藤 敏明 様

会派（議員）公明党 眞島聡子
代表 川島 さゆり
（報告書作成）眞島 聡子

研修報告書

コミュニティナースプロジェクト研修会報告書

- 1, 日時 令和元年8月23日（金）17時より
- 2, 場所 中軽井沢くっかけテラス2階多目的室
- 3, 研修参加者 川島さゆり 眞島聡子

4. 研修内容

全国で活動するコミュニティナースが集まり軽井沢で行った研修と実践の報告会。

◎視察目的

軽井沢町におけるコミュニティナースプロジェクト報告会を通し、町内におけるコミュニティナースの必要性について考える

◎視察内容（ヒアリング内容）

報告会、ワークショップ中心者

コミュニティナースプロジェクト事業責任者 森本健太氏

交流会

コミュニティナースカンパニー（株）代表 矢田明子氏

コミュニケーター（育成講座事務局） 藤田奈津子氏

コミュニティナース研修生、聴講生のみなさん

◎考察

当報告会への参加前に、8月17日「軽井沢キッズケアラボ キッズケアサミット2019」の講演会に参加し、医療的ケアが必要な子とその家族の方が、軽井沢町内で行った活動報告や、沖縄県で活動するコミュニティナースの活動報告をお聞きした。（こちらは眞島聡子のみ参加）

その後、こちらの報告会に参加した。

8月22日から24日まで、軽井沢町に、全国から参集したコミュニティナースの卵の第9期研修生のみなさんが「もし軽井沢町でコミュニティナースをすればどのような活動が出来るか」を考えるため、実際に町内3つの企業（農園・美術館・図書館）に出向きグループでフィールドワーク活動を行った。報告会では、3日間の活動報告とワークショップが行なわれた。そこに議員（有志7名）で参加させて頂き、情報共有させて頂いた。

住民のすぐ近くにいる身近なナースとして、健康相談、介護相談などにいつでも対応できる活動を行うコミュニティナース。実際にこの夏、軽井沢で実践してきた報告と軽井沢町内での今後の活動展開の可能性など話し合われた。

身近な相談者がいることで、予防に備えることが出来、医療費の削減や自殺者ゼロへの取り組み、地域をつなぐ役目、青年達の性などへの相談窓口、認知症予防、訪問看護、病後児保育の担い手、など様々な活動展開が期待されると考えた。

課題としては、現在、ボランティア活動のようになってしまっているコミュニティナースに対して、しっかり生活が保障された地位にしなければ、いずれ活動は絶えてしまうのではないかと考えた。

8月17日に参加した。キッズケアラボでは、24時間医療的ケアが必要なお子さんが軽井沢町内で合宿をしていたことに驚いた。お子さんが車いすで生活されているご家族の方から、「軽井沢町は車椅子での移動がしにくい町ですね」とのご意見を頂き、自分の視点を見直していかねばならないことを感じた。また、本来であれば、寝たきりの状態であった子どもが、介護補助などを受けることで、車椅子での移動が可能な状態まで回復したことなどの報告があった。講師の一人であった、オレンジホームケアクリニックの理事長・在宅医療専門医の紅谷浩之医師から「子どもは生まれて来た時に、自分が障害を持っているとは思っていない。それはその子にとっての普通なのだ」との言葉は、今後のケアを考える上で大事な視点だと考えた。沖縄県で活動しているコミュニティナースの活動を聞いたことで、コミュニティナースへの理解ができた。

※必要に応じて写真データ添付